

「やわらかいよは強いよ」

和紙ってなに？
教えて、わしの博士!!

ユネスコ無形文化遺産登録された細川紙・本美濃紙・石州半紙。その中の石州半紙ってどんな和紙？お教えしましょう!



【石州半紙】

①柿本人麻呂が教えた手漉き和紙技術!

石州和紙(石州半紙)は島根県の西部(石見地方)の地域で漉かれている和紙です。寛政10年(1798年)に発刊された国東治兵衛著書の「紙漉重宝記」によると「慶雲・和銅(704年~715年)のころ柿本人麻呂が石見の国の守護に民に紙漉きを教えた」と記されているようで、約1300年もの間、守られ続けてきました。

②基本の「流し漉き」

石州和紙(石州半紙)は原料に楮・三椏・雁皮の植物の靱皮繊維を使用し、補助材料としてネリに「トロロアオイ」の根の粘液を使い、竹簧や萱簧を柎にはさんで「流し漉き」により漉かれます。「流し漉き」とは、原料を簧に入れ、全体を揺り動かして均質な紙層を作り、数回液を汲み上げて同じ操作を繰り返し、紙層が求める厚さになったとき、余分の水といっしょに不純物を流し出す方法です。繊維がよく絡み、強靱な和紙ができます。

③江戸の時代を生き延びた紙

生産の最も多い石州半紙は地元で栽培された良質の楮を使用して漉かれ、微細で強靱で光沢のある和紙です。かつて、大阪商人は石州半紙を帳簿に用い、火災のときいち早く井戸に投げ込んで保存を図ったものです。

私が小学生のころ、テレビで「ねむの木学園」という養護施設の放映がありました。この施設は歌手や女優として活躍していた宮城まり子さんが設立したものです。番組の中で「やさしくね、やさしくね、やさしくね、やさしい」とは強いよ」という宮城さんの言葉に強く惹かれました。当時は宮城さんの思いを知る由もなく、気の弱い性格であった自身に、「やさしいことは強いことだ」と思い込んで奮い立させていました。

年月が流れ、大人になって「やさしいよ」について考えさせられる時がありました。それは子育ての際、「甘やかすべき優しさ」と「自立のため厳しくする優しさ」というものでした。今でも子育てやそれ以外にも優しさの使い分けに悩む日々が多々あります。

ねむの木学園では自立の難しい子どもたちが集まっています。自立は難しいからみんなが助け合えないといけない。しかし、助けられるのが障がいを持つ人の特権と思っではいけない。手伝える自分がいるということを教える。宮城さんの話を聞いて、改めて自分自身の優しさについて考え、生きていきたいと感じました。

教育委員会事務局長

山崎 充弘

ているそうです。

宮城さん自身、困っている人を助けることで強くなれるのかは分からないと言います。ただ、優しくしてあげたら、優しくなったら、いじめられても、何かされても、許すことができる。許すことができるというのは自分に強いということ。そう思っていました。

私たちの自慢!

東秩父村へおいでよ!みんな
一観光情報一

今年も川越で「東秩父SELECTION#2」を開催します!

和紙フラワーや和紙商品開発事業の作品展示・販売の他、村の風景を和紙にプリントしたフォトギャラリー、和紙ワークショップを通して和紙の楽しさ、奥深さ、可能性を体感していただきます。東秩父村の和やかな雰囲気をもっとの方に知っていただき、身近に感じてもらえる機会を目指しています。ひと足早い春を感じに、ぜひ川越へお越しください!

- 日時 3月7日(木)~10日(日) 午前10時~午後4時
- 会場 旭舎文庫(あさひのやぶんこ) 川越市志多町1-1
- 内容 細川紙フラワー展示販売/和紙商品開発事業の作品展示/和紙フォトギャラリー/和紙ワークショップ(染め紙だるま・和紙フラワー・紋切アート)
- 協力 川越氷川神社
- 問合せ 産業建設課 ☎82-1223

